

## 1 学校の状況と地域の実態

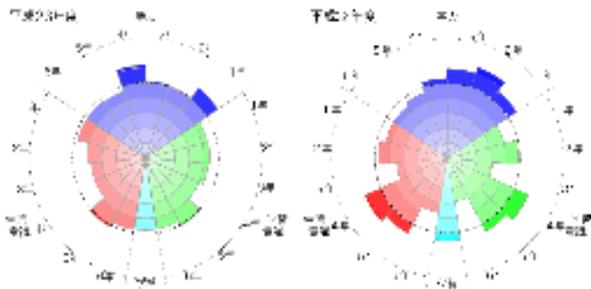
- (1) 各学年2学級ずつの構成で、1学級は多くても30人であり、生活全般は落ち着いている。また、地域・家庭も成熟した感があり、学校教育に対する理解・協力も十分である。
- (2) 教員の構成としては、経験年数が10年未満の職員が半数を占め、指導技術や児童理解の研修を計画的に進めることが必要と思われる。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応が十分でない状況も見られる。特別支援コーディネーターを中心に指導体制の構築を図り、活用につなげる必要がある。
- (4) 子どもたちの学習意識は高く、家庭での学習もしっかり行い、読書に対する意識も高い。
- (5) 学校と地域、保護者との連携は充実し、学力向上に向けた学校との協力体制の構築を継続している。

## 2 中期学校経営方針「確かな学力」達成目標

### (2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 言語活動を充実し、自分の考えを表現できる学習に取り組み、思考力・判断力・表現力の育成が図られるとともに、市学習状況調査の標準化特典が更に向上しています。
- 一人ひとりの児童の実態やニーズに合った、楽しくわかりやすい授業を行い、特別な教育支援を要する子が安心して学習する場が確保されています。
- 研究・研修時間を確保し、専門家を招請するなど内容が充実しています。

## 3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均を大きく上回る学力である。本校児童の自己肯定感が高く、「一生懸命取り組んでいることがある」と答えた児童は7割を超える。さらに約5割の児童が「勉強はよくわかる」「勉強は好きである」と答えている。また、家庭での学習時間が1時間を超える児童も約半数を占めている。これらの傾向は、低学年から高学年まで平均して見られる。このように学習に対する意識の高さが、横浜市

市の平均を大きく上回る結果となったと考えられる。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：平均を大きく上回っているが、低学年での「書くこと」への指導の工夫が課題である。
- 算数科：知識・理解、技能、数学的思考は十分に身につけている。
- 社会科：どの観点も十分に学習内容が定着している。
- 理科：全般的に市の平均以上の力をもっている。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、前年より安定した学力の定着が図られたと感じる。家庭学習の定着や言語活動に着目した授業の組み立て、重点研究で国語を取り上げ、「話す・聞く」力の育成に当たり、伝えることの大切さが学習を深めることに役立ったと考える。

個人の能力の高さは十分であるが、話し合いで内容を深めるとか、興味を広げるといような学習に課題を感じる。伝えたいことを焦点化したり、情報の提供、またはその中から必要な情報を選択をしたりする授業を工夫する必要があると思われる。

## 4 平成26年度 目標と具体的方策

平成26年度 目標

目的と相手意識を明確にした言語活動で、自分の言葉で表現できる授業の実現

### (1) 学校組織としての共通の取組

- **言語活動の充実**  
教科等の学習での言語活動の充実を図り、さらに今年度は、国語を重点研究に取り上げて目的と相手意識を明確にして自分の言葉で表現する場を多く取り入れた授業を行う。
- **特別支援教育の充実**  
特別コーディネーターを中心に職員が児童理解の研修を重ね、特別な教育支援を必要とする児童の個別支援計画に基づき、校内の支援体制の確立を目指す。
- **研修・研究会の時間の確保と内容を充実**  
放課後の会議の精選をしたり、夏季休業を利用したりして、研修・研究時間を確保する。

### (2) 学年・教科等としての取組

#### ○ 言語活動の充実

#### 1 学年

- 教科等の学習で、わからないことや知りたいことを進んで聞いたり、聞いたことへの感想を伝えたりできるようにする。
- 国語の学習では、相手の話に興味を持って最後まで聞くことを身につけ、相手に応じた話し方や話事柄を考えられるようにする。

#### 2 学年

- 教科の学習では、自分の伝えたいことを明確にし、語彙を増やししながら、話し合いを進められるような学習を工夫する。
- 国語の学習では、大事なことを落とさないように整理しながら聞くことや、相手や場に応じた言葉を選んで順序よく話ができるような場を計画的に設ける。

#### 3 学年

- グループ学習などでは、理由や根拠を尋ねたり、意見をまとめたりできるような場面を設ける。
- 国語の学習では、話の中心を明らかにして、相手や目的に応じて筋道立てて話したり、相手に質問したり感想を述べたりする場の工夫をする。

#### 4 学年

- 学習の中で説明や報告を聞き、自分の意見を述べるができるようにする。また、話し合いでは進行に沿って話し合いが進められるようにする。
- 国語では、話を聞いて自分の経験と結びつけたり、自分の考えと比べたりして話し合う場の設定を工夫する。

#### 5 学年

- 学習では資料提示をしておの説明や報告に対して分類整理しながら考えることができるようにする。
- 国語では、事実と感想、意見を聞きわけたり、話し手の目的や意図をとらえたりして、それを自分の考えと比べながら話し合う。

#### 6 学年

- 教科等の学習では、適切に話したり、聞いたりして、助言・提案をしあえる計画的な話し合いをする。
- 国語では、話し手の目的や意図をとらえ、自分の考えと比べて、共通点や相違点、関連している点などを整理して、事柄が明確に伝わる話し合いの場の工夫をする。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。